



本学では 2005 年度から北海道大学オープンコースウェアプロジェクト（以下、北大 OCW）を開始し、講義の資料や映像を通して北海道大学の教育を伝えています。この趣旨にご賛同くださる先生方のご協力で活動を維持していますので、本ニュースレターで北大 OCW の活動をより一層ご理解いただければ幸いです。皆様からの資料提供を心よりお待ちしております。

北大 OCW では講義資料や講義映像を、ウェブサイトや iTunes U にて公開しています。本ニュースレターでは北大 OCW の活動にご協力くださっている先生方の声をシリーズでお伝えします。今回は、H24 年度エクセレントティーチャーズに選出された「思索と言語 ことばを科学する：人間の再発見」担当教員の奥聡先生にお話を伺いました。

◇◇◇◇◇
「ことばを科学する：人間の再発見」
の概要と学生の反応を教えてください

◇◇◇◇◇
昨年から全学教育「思索と言語」の
一科目としてスタートしました。私の
専門が理論言語学で、また私自身が科学
哲学や科学の方法論に興味があるので、
それらを組み合わせた内容にしてい
ます。半分は言語学そのものを紹介し、
残りは言語学を使って科学的なもの
の考え方を考察するという構成です。

“自然科学”の一分野として、人間の
頭の中にある仕組みがどうなってい
るかを考える。その発想自体が多く
の学生にとっては意外なようで、文
系の科目だと思っていた等の感想が
寄せられます。そもそも、文系と理
系を分けること自体が本質的な意味
をもたないことも確かですし、授業
で基調にしている言語学は、自覚
的に“自然科学”だと自己を定義
しています。

大学1、2年生は、まだ決着のつ
いていない問題について考えたり、
解決すべき問題を作り出すといった
ことに慣れていないと感じます。当
たり前だと思っていることに少し踏
み込んでみると、分かっていないこ
とは多いのです。言語ではそれが顕
著にみられます。

今期は 177 名が履修登録してい
ます。授業を受けるうちに、熱心に
取り組む学生はこういう言語学もあ
るのだということを理解していきま
す。そのことに喜びを感じてのめり
込む学生は多いです。しかし、言葉
のように神秘的な

ことを科学的に考えてしまってもよ
いのだろうか、最後まで違和感を持
ち続ける学生も一定の割合でいま
す。非常に興味深いところですよ。

◇◇◇◇◇
大人数のクラス編成ですが、授業の
こだわりはありますか？

◇◇◇◇◇
なるべく学生を動かして飽きさせ
ないようにしています。経験的に、
北大生はうまく仕掛けて刺激すると
90 分の授業に十分に集中し積極
的に参加してることがわかっていま
す。欧米学生に教えていたときに比
べると大人しいですが、書かせると
本当に良く書きます。

毎回、授業の終わりに今回のポ
イントとそれについての感想を書か
せています。学生達は静かに黙々と
書いていますが、実は、とても前向
きに授業へ参加している時間なの
です。授業で面白いと思ったこと
を主体的に書くと、自分の中できち
んと整理ができますよね。強制的
にそういう時間をもつことに意味
があります。

そうして、フィードバックを常に
モニターしています。今日はココだ
ぞ！と思ったところが学生が面白
がっている感想は非常に嬉しい。一
方で、思ってもみなかったところ
に厳しい意見が入ることがあります
が、私にとっては重要なインフォ
メーションです。学生達の素朴な
質問の中には、答えの出ないこと
もありますが、学生の好奇心をよ
り引き立てる形でコメントを返す
という作業は、教育者として非常
にチャレンジングな作業ですよ。

さらに、それらの意見を次回
授業のきっかけにすると、学生
も自分の考えが次の授業につな
がっていると感じ取ってくれて、
大人数クラスでも、十分にイン
タラクティブな授業が出来ます。



奥聡 (おく さとし)
メディア・コミュニケーション研究院准教授
【研究領域】理論言語学、生成文法
情報構造、ゼロ項構文、言語獲得

◇◇◇◇◇
これまでの OCW との関わりと、今
後に期待することは？

◇◇◇◇◇
OCW 立上げ当初、私は研究院の連
絡担当に任命されました。全学
的に、教材提供の依頼があった時、
シラバスとハンドアウトなどを提供
してもらい、理解がなかなか得ら
れなくて、そこで、少しずつ作り
溜めていた英語Ⅱの教材を提供し
ました。

立上げのために来学されていた
MIT の宮川先生は、同じ分野の理
論言語学研究者なので以前から面
識があります。MIT は世界最先端
の授業を無償公開すると決めまし
たが、生で授業に参加できるのは
MIT 学生ですし、オンラインでは
表面的エッセンスを覗いているの
にすぎないと。そういうものなの
だと思っています。

MIT には自書を全頁公開してい
る先生もいるそうです。出版社は
渋いですが、結果的に売れ行きは
上がったそうです。見たから買わ
ないというより、手元に本として
残しておきたいと思う割合のほう
がずっと多かった。これは、なか
なか示唆的です。

OCW を通して、北大に来たいと
思う質の良い学生が増えること
につながる充実したコンテンツを
提供できるといいですね。



～講堂内を縦横無尽に駆け回る姿が印象的な授業風景～

【奥聡先生の関連公開コンテンツ】
全学教育 英語Ⅱ、ことばを科学する：人間の再発見

新規コンテンツ公開状況 (2012/12/1 ~ 2013/12/10)

*は学内限定公開

◆コース (正規講義資料)

英語演習初級	2012年度第2学期(全14回)	全学教育科目
キャリアデザインI*	2012年度第2学期(2回)	全学教育科目
英語II	ビデオ教材	全学教育科目
大学と社会*	2013年度第1学期(10回)	全学教育科目
学問の世界*	2013年度集中講義(5学科・コース)	全学教育科目
情報学I	情報倫理小冊子	全学教育科目

◆セミナー/講演会

スキルアップセミナー	第1回、第2回	アカデミック・サポートセンター 附属図書館
北海道大学公開講座	2013年度(3講座)	学務部
国際原子力人材育成イニシアティブ事業		
「環境放射能基礎コース(初級)」	2013年6月(3講義)	工学研究院
「環境放射能コース(中級)」	2013年7月(2講義)	工学研究院
「環境放射能専門家育成コース(上級)」	2013年8月(1講義)	工学研究院
北海道大学情報基盤センター共同研究講演会	2012年10月、2013年3月、7月	情報基盤センター

◆研究教育資料

北海道大学総合博物館展示資料	展示映像3点	総合博物館
----------------	--------	-------

◆公開講座/市民セミナー

北海道大学オープンキャンパス2013	2013年度(2学部)	アドミッションセンター
サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館	2012年度	総合博物館
市民セミナー 安心した暮らしと在宅ケアを支える	2012年度	保健科学研究院
ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ	2012年度	保健科学研究院
北海道大学総合博物館 土曜市民セミナー	2012年11月~2013年7月開催回	総合博物館
北大人文学カフェ	第9~11回	文学研究科
時計台サロン 農学部に聞いてみよう	第7~12回、第14回	農学研究院

OCW 博士のコラム ~ HU-OCW の舞台裏 ~



2006年度に公開を開始し、8年が過ぎようとしている北大OCWの公開資料は、数と種類ともに充実してきた。2013年12月10日時点で、正規科目125科目、その他245科目(全370科目)が公開されており、アクセス数は約5万ビジット/月、約50万ページビュー/月に達している。ご尽力いただいた教職員の皆様には誠に感謝いたしておる。

ところが、資料に含まれる第三者著作物について利用許諾を得られないこともままあり、削除せざるを得ない場合がある。著作権法で授業での複製が認められておいても、OCWからのウェブ配信となるとわけが違ってくる。

そこで、OCWではご提供資料の内容をそこなわないように、力を注いでおる。

2013年11月に4.0バージョンアップされたクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(詳細→<http://creativecommons.org/weblog/entry/40768>)などを採用した使用

可能素材への差替えやクレジット表記、さらには資料に出版社名等発行元を含む出典を明記のうえ利用許諾を申請するなど、資料内の素材をできる限り活かした形で公開できるように、一丸となって取り組んでおるのじゃ。

OCWでは本学の知の継承・知の普及・知の育成を進めることが目的じゃ。アーカイブ化するだけではなく、実を伴ったコンテンツを公開していきたいと考えておる。

資料公開にご興味のある教職員の皆さんは、なんなりとご相談いただきたい!

【編集後記】資料提供や撮影にご協力を賜りました先生方、各種連絡調整にご尽力を賜りました担当教職員のみならず、そして奥先生にこの場をおかりしてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。OCWスタッフ一同 (ED/川村)



〒060-0811 札幌市北区北11条西5丁目 北海道大学オープンコースウェア 学内便(48)
TEL/FAX 011-706-3555 E-mail: contact@ocw.hokudai.ac.jp
<http://ocw.hokudai.ac.jp/>

OCW2014年1月発行